

ブレイクスルー研究の基盤構築に関連する若手研究者による取組み：分野間連携と次世代育成に注目して

Action to build a base for breakthrough study by young researchers

長谷川 拓也^{1*}, ニューイヤースクール事務局²
HASEGAWA, Takuya^{1*}, New Year School Office²

¹ 海洋研究開発機構/地球環境変動領域, ² 無し

¹JAMSTEC-RIGC, ²none

将来のブレイクスルー研究のためには、次世代の研究者の育成となる基盤をより充実することが期待される。その一例として、地球科学の様々な分野の若手研究者の有志によって運営されている、ニューイヤースクールの活動を主に紹介する。

ニューイヤースクール(以下、NYS)は、毎年1月に開催される。NYSの企画や運営は、主に大学院生から30才代の若手研究者の有志によるボランティア活動によって行われる。NYSでは、地球科学に関係する招待講演が多く企画され、各講演に関係する研究テーマの基礎や市最新の研究成果および将来の発展などについて情報を得ることができる。さらに、NYSのコンセプトとして、「参加者の一人一人が自分の意見・考えを伝え、さらに参加者間でそれらの意見・考えを共有することによって、そこから新たな考えを模索する」というテーマが挙げられる。くわえて、専門分野に特化した学会においては交流することが困難である様々な世代・分野・立場の人々と交流することにより、視野を拓き将来について考え、新たな研究を開始する「きっかけ」を作るための場としての役割を果たす。NYSは、このような活動を通じて、地球科学分野における学際的な枠組みにおいて若手研究者の育成や将来の分野間連携研究の土台作りにも貢献することを目的としている。

NYSは2日間にわたって行われるのが恒例である。招待講演に関しては、通常レクチャーとExレクチャーの2つのカテゴリーが存在する。通常レクチャーでは、地球(惑星)科学の各分野(大気海洋、マクロ固体地球、ミクロ固体地球、宇宙惑星、生命圏、環境など)の第一線で活躍している研究者による招待講演が行われ、研究の背景、最新の研究動向や今後の展望などを学ぶことができる。講義のレベルは他分野の大学院生が理解できる程度とされる。また、Exレクチャーでは、研究と関連する活動について招待講演が行われる。過去には科学番組の製作、科学情報誌・書籍の編集・執筆、表現法、論文作成、基礎科学の社会活動への還元、教育・アウトリーチ活動などに関する講演が行われた。通常レクチャーおよびExレクチャーは、概ね6講演がそれぞれ行われる。

これらのレクチャーに加えて、参加者全員によって1時間から2時間におよぶグループワークが行われる。およそ10人程度のグループに分かれて、分野間連携や各講演テーマに関係する議論・ブレインストーミングなどが行われる。グループワークではA0サイズの模造紙を有効に使用して、意見の揭示・整理・集約が行われる。このようなグループワークを行うことによって、参加者がそれぞれの研究意識を高め、また将来の分野間連携について視野を広げることを促進する。このグループワークには、必要に応じて招待講演の講師も参加し、議論がさらに活性化される。

NYSの参加者にはレクチャーノートが配布される。レクチャーノートはおよそ150ページであり、招待講演の要旨に加えて、論文執筆、学会発表、研究プロポーザルに関するノウハウ、若手研究者をとりまく状況や就職先、観測航海や海外留学に関する体験記やIODPに関する情報なども掲載され、大学院生や若手研究者の研究活動促進に有益な情報を提供する。

NYSは今年で10回目の区切りを迎えた。これまでの活動が評価され、NYS事務局メンバーを受賞者として2010年に地質学会表彰を受賞した(業績タイトルは「地球科学系の若手研究者の継続的育成活動」)。このようなNYSの活動内容は、事務局メンバーの構成変更とともに、これまで数年に一度の頻度で大きく見直されており、今後は上記の活動の継続のみならず、さらなる発展を目指している。

上記のように、NYSは大学院生を含む若手研究者の有志によって運営され、参加者も若手が中心であるが、地球科学の多くの分野において大学院に進学する学生数は最近減少傾向である。NYSのような活動やその他の学会活動および将来のブレイクスルー研究の基盤構築のためには、学生数の大幅な減少を防ぐ必要がある。大学院進学者の減少傾向の対策に関しては、大学の講義・研究室活動に加えて、義務教育や高校教育における理数系科目の授業および一般社会へのアウトリーチ活動なども含めて検討されるべき課題であり、長期スパンにおける次世代育成活動にも関連する内容である。より積極的なアウトリーチ活動および産学官民連携を実施することによって、応用研究のみならず基礎研究のブレイク

Japan Geoscience Union Meeting 2012

(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



AOS25-04

会場:102B

時間:5月25日 14:30-14:45

スルー研究基盤整備や次世代研究者の育成が推進されることが期待される。

講演では、NYSのさらなる紹介や、ブレイクスルー研究の土壌となる長期的な研究基盤構築・次世代育成に貢献し得るアウトリーチ活動および産学官民連携に関する内容についても発表する予定である。

キーワード: ブレイクスルー研究基盤構築, ニューイヤースクール (NYS), 分野間連携, 次世代育成, アウトリーチ
Keywords: Build a base for breakthrough study, New Year School (NYS), cooperation between multi fields, Encouragement of next generation, outreach